

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 4 区分
 【発行日】平成 17 年 11 月 10 日 (2005.11.10)

【公開番号】特開 2004-124231 (P2004-124231A)
 【公開日】平成 16 年 4 月 22 日 (2004.4.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-016
 【出願番号】特願 2002-293786 (P2002-293786)
 【国際特許分類第 7 版】

B 2 2 F 9/04

B 2 2 F 9/14

【F I】

B 2 2 F 9/04 B

B 2 2 F 9/14 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 9 月 20 日 (2005.9.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】線材とした原料を、一定の間隔で切断して原料片とし、ついで、該原料片の集合物を尾部の伸長を抑制したプラズマ炎中に導入し、溶融、球状化させることを特徴とする球状粉末の製造方法。

【請求項 2】プラズマ炎の尾部の外周に位置するプラズマトーチまたはチャンバの内径が、プラズマ発生部のプラズマトーチ内径の 4 倍以上であることを特徴とする請求項 1 に記載の球状粉末の製造方法。

【請求項 3】プラズマの雰囲気圧力は、0.04 MPa～大気圧とすることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の球状粉末の製造方法。

【請求項 4】原料片の体積は、球相当径として、20～1000 μmであることを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れかに記載の球状粉末の製造方法。

【請求項 5】原料片の融点は、1600 以下であることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れかに記載の球状粉末の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明において好ましくは、プラズマ炎の尾部の外周に位置するプラズマトーチまたはチャンバの内径は、プラズマ発生部のプラズマトーチ内径の 4 倍以上とする。また、好ましくはプラズマの雰囲気圧力は、0.04 MPa～大気圧とする。

本発明において使用する、原料片の体積は、球相当径として、20～1000 μmであること好ましく、また、原料粉末の融点は、1600 以下であることが好ましい。